

写真



広島で初の世界平和連帯都市市長会議 1985年8月5日

増大する核脅威への危機感を背景に、活発な議論が交わされた。言葉や文化が異なる世界から集まった代表は「ノーモア・ヒロシマ」で一つになった



原爆慰霊碑前のテレサ女史 (1984年11月23日)

碑に「聖水」をさけて犠牲者を慰めた。原爆資料館では「平和のなかに一緒に祈りたい」と手を合わせた

ヒロシマを世界にアピール 1984~85



二つ並んだ原爆慰霊碑 (1984年11月26日)

被爆40年を機に老朽化した原爆慰霊碑(奥左)が改築されることになった。工事に前に、大きさ、形、色もそっくりな木製の仮慰霊碑(手前右)が完成した

レンズはとらえた

戦後70年

# 被爆地発核廃絶の願い

1985年5月5日、被爆40年の広島を舞台に「平和回廊市長連帯都市市長会議」が始まった。当時、欧州では東西冷戦の核の緊張が高まり、第三世界では紛争が多発。核兵器の廃絶に向け、海外22カ国の都市と国内の98都市が参加した。

市長たちは300人は被爆慰霊館に参拝し、原爆資料館も学。被爆者8人が40年前の状や後遺症の苦みさを聞き、被爆地を巡る「参加者は米の指導者ヒロシマに来るべき」と述べた。翌日の8日、世界の市長が連帯し取り組む目標を盛り込んだ「広島アピール」を正式に採択し、最終に会場を移した。

アジア初の国際アニメフェスタ (1985年8月18日)



「愛と平和」をテーマに第1回国際アニメーションフェスティバル広島大会が開幕。17カ国から寄せられた69作品が6日間かけて公開審査された

完成した広島市役所新本庁舎 (1985年5月18日)



被爆建物だった旧本庁舎(手前右)は後に取り壊されたが、地下倉庫が保存され、「旧庁舎資料展示室」となった。東側には16階建ての新庁舎がそびえ立つ

カーター元米大統領の平和アピール (1984年5月25日)



米大統領経験者として初めて原爆資料館などを見学。約千人の市民たちに「核戦争を防ぐには、世界の指導者の行動だけに頼らず、私たちが平和を不断に要求しなければならない」と呼び掛けた

中国新聞 SELECT